



内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです

ボランティア・学生インターンを募集しています!メールやお電話で、お気軽にお問い合わせ下さい。



ウォーカブルなまちづくり



「千代田区も意外と危険!」の反響

前号vol.26(2022年4月)の「千代田区も意外と危険です!」にて千代田区における災害の歴史をご紹介したところ、多くの反響を頂きました。歴史的に見ると直下型と海溝型の地震、台風や前線を伴った大水害に繰り返し襲われてきた事を知らなかった、古事記や日本書記の話に興味を持った等のご意見を頂きました。過去に大きな災害があった地域では、同様の災害が発生すると言われてしますので、都市機能の更新は大変重要です。また、最近の千代田区では、自然災害や感染症だけではなく、停電や不審者情報も頻発しています。安心・安全と言われてきた千代田区ではありますが、油断は禁物です。

ウォーカブルまちづくりデザインとは?

令和2年、国は「安全なまちづくり」及び「魅力的なまちづくり」の推進を柱とする都市再生特別措置法を改正し、都市再生の指針を掲げました。私は令和3年第1回区議会定例会にて、自民党会派を代表した質問のなかで、地区計画の改定とともに、国土交通省が募集している、居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成を目指す「ウォーカブル推進都市」へのエントリーを提案致しました。

その際、樋口区長からは、「人優先のみちづくり、まちづくりを官民一体で進めるため、千代田区もウォーカブル推進都市にエントリーする様手続を進めて参ります。」とご答弁を頂きました。そして、千代田区ならではのウォーカブルなまちづくりを推進するために、令和3年5月に国土

交通省のウォーカブル推進都市ヘントリーされ、今年6月には「千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン」が策定されました。

ウォーカブルなまちとはひと言でいえば「居心地が良く、歩きたくなるまち」のことです。地域資源を効果的に活用し、その地域に適した人々が滞留しやすい空間や回遊しやすい空間を創出するとともに、その空間を活用した活動を展開していくことで、地域の魅力向上や多様なコミュニティの活性化が期待されます。そして、環境問題、災害リスク、子どもの遊び場不足、交通事故、賑わいの低下等、地域が抱える課題の解決にも対応していきます。

近隣の具体例としては、公開空地と道路空間を一体的に活用した「丸の内仲通り」や石畳風デザインのコミュニティ道路とした「北十間川北側道路」、フェスの期間中交通規制を行い、テーブルや



- ①「千代田のまちづくり」に全力で取り組みます。
- ②皆様からの「ご相談」に迅速にご対応します。
- ③活動レポート「FORWARD」を定期的に発行します。
- ④「タウンミーティング」を定期的に開催します。
- ⑤国、東京都、千代田区をしっかりと「繋いで」参ります。

内田直之 5つのお約束

Think

いす、芝生、テント、バスケットゴールなどを設置した「渋谷中央街」、複数公園の再整備を核とし、エリアマネジメントにも注力する「池袋駅周辺」など、国内には30以上の事例があります。

ウォーカブルなまちづくりを実現するには

千代田区はウォーカブルなまちを実現するために必要な多くの要素を持っています。皇居を中心としたコンパクトなまちであり、神田祭や山王祭など、江戸古来の伝統や文化が継承されています。中でも最も大きな要素は、豊かな道路空間です。千代田区の道路率は約24%であり、東京都平均の約8%、23区平均の約16%と比較しても、大きく上回っています。

道路率が高い事には大きなメリットがあります。道路の整備が進んでいる事による、生活利便性や防災力の向上、経済的効果などが挙げられます。ウォーカブルなまちを実現する為には、この豊かな道路空間を車中心の道路から人が中心の歩きやすい道路空間へ変更したり、沿道建物の飲食スペースとして活用したり、子どもの遊び場として利用するなど、アイデアは尽きません。昨今話題となっている「神田警察通りの沿道整備」は、自動車道と駐車帯を減らし、自転車専用道と歩道を広げ、周辺の賑わいを繋げると言う、まさにウォーカブルなまちを目指した事業と言えます。

近い将来千代田区が「居心地が良く、歩きたくなるまち」「多様な人々が集い、出会えるまち」「身近で遊び、スポーツが出来るまち」を実現するには、区民、民間企業、行政の連携が大変重要となります。2022年は11月1日、2日、4日、6日と区内4カ所にてタウンミーティングを開催予定です。皆さんと一緒に、身近なウォーカブルなまちについて考えて行きたいと思っていますので、ぜひ遊びに来て下さい!

Study

FC千代田と東京武蔵野ユナイテッドFCが連携!

千代田区に密着した活動を続ける都市型のフットボールクラブであるFC千代田と東京都をホームタウンとして日本フットボールリーグ(JFL)に所属し、Jリーグを目指す東京武蔵野ユナイテッドFCが連携協定を締結しました。2018年には一般社団法人千代田区サッカー協会も連携協定を締結しており、千代田区など都心部のサッカー環境が大きく発展することを期待しています。千代田の子ども達からプロサッカー選手や日本代表選手が誕生することを今から楽しみにしています。

FC.CHIYODA: info@fcchiyoda.com



区議会ウォッチ(保健福祉委員会)

区議会で行き届く事項は広域にわたります。専門的に調査、審査したほうが効率的かつ合理的であるため、各委員会が設置されています。千代田区議会の常設の委員会のなかで、保健、医療、社会福祉分野についての担当委員会が「保健福祉委員会」です。第3回定例議会では、神田錦町三丁目施設の整備事業や8050問題(ひきこもり対策)の取り組みなどについて、調査・審議されました。

委員会の主催者である委員長は、2期目の池田友規議員が務めています。新型コロナウイルス感染症対策以外にも、認知症関連事業への取り組みや、区内の認知症患者ゼロを目指した活動に、積極的に取り組んで行きたいと抱負を語られていました。



委員長

世界の街歩き



ヘルシンキ(フィンランド共和国)

人口 63万人

面積 158km²

私がヘルシンキを訪れたのは2015年、当時日本から一番近い欧州と言われていました。フィンランドの首都であるヘルシンキは、同国最大の都市であり、政治や教育、金融、文化など様々な分野の中心都市です。フィンランド湾に面しており、同湾に

面しているのはエストニアの首都タリンやロシアの旧都サンクトペテルブルクとは、歴史的に密接な関係にありました。東京23区の約1/3ほどのコンパクトな都市ヘルシンキは、歩いて回るのが楽しいウォーカブルで美しい街です。

フィンランドと言えば、サウナ、ムーミン、サンタクロース、オーロラ、34歳で首相になった女性のマリン首相、北欧デザインなどをイメージすると思います。近年は環境先進国、IT先進国、教育先進国、働

き方先進国等、様々な分野で進んだ国と言われています。なかでも注目すべきはMaaS(マース)「Mobility as a Service」です。各種交通インフラとAIなどの情報技術とを組み合わせるパッケージ化し、さまざまな交通の課題を解決しようというフィンランドで生まれた概念で、現在世界中で取り組みが始まっています。

親日国でもあるフィンランド、そしてヘルシンキをまた訪問出来たら、次はサウナに入り「フィンランド流豊かな人生」とは何かを考えてみたいと思います。

Sense



青山 侑 明治大学大学院名誉教授 × 内田直之

まちづくりに関わる著名な方々と、内田直之との対談を連載でご紹介します。第3回目のゲストは、恩師でもある明治大学の青山侑名誉教授にご登場いただきます。

明治神宮 外苑再開発に ついて

明治神宮外苑の再開発事業から学ぶべき事とは？

民主主義のルールと部分最適と全体最適という考え方が大切です。

内田直之(以下、内田)…「まちづくりシンポジウム」ではご講演いただきありがとうございました。「渋沢栄一と東京の都市計画」でお話された「公共・公益の精神」や「東京の都市構造論」、そして「道路率からみる千代田区の可能性」は大変勉強になりました。また、神田警察通り沿道整備に関する私の質問に対し、分かりやすいご回答には、多くの皆様から大絶賛をいただきました。今回は「明治神宮外苑再開発」についてお聞きしたいと思います。

青山 侑先生(以下、青山先生)…明治神宮の創建が構想された際、「内苑」が明治神宮の社殿がある森、「外苑」が緑に囲まれたスポーツ・レクリエーション施設と位置づけられました。どちらも明治神宮という神社の所有です。憲法の政教分離原則により老朽化した神宮球場等は公費の補助によって建て替えることはできません。そこで東京五輪開催決定後、都が示した神宮外苑を対象とするスポーツ・クラスター構想を受け、明治神宮と周辺の土地所有者等が共同して都市計画を提案し、都・区の担当者らと長い協議を経て都市計画決定したのが今回の計画となります。

内田…神宮の森(内苑)と外苑の緑はどちらも明治神宮が所有しているのです。内苑と外苑の歴史的な成り立ちから、それぞれ違う役割を担ってきたのですか？

青山先生…明治神宮の森は大きな森ですが、元々の樹林は全体の1/5程度であり、全国から寄せられた献木により数十年で立派な神社の森となりました。一方、神宮外苑は、スポーツ・レクリエーション施設とするため、幾つかの川や谷を埋め立て平地としたものです。どちらも明治神宮のもので、性格が大きく違います。明治神宮の緑は神社の緑ですが、外苑の緑はスポーツ・レクリエーション施設の緑なのです。

内田…樹木伐採の部分に懸念の声が上がっているそうですね。改めてお聞きしますが、ルールとしての意思決定について、部分最適と全体最適という考え方に教えて下さい。

青山先生…一般的に民主主義のルールとしては、少数意見は尊重されますが、最終的な結論は多数決に従う事になります。だから部分最適と全体最適という考え方は民主主義社会にとって大切なルールとなります。勿論これらは相対的な問題であり、部分最適の方に社会の価値観が一致する事もあるもので一概には言えません。木を伐採すべきでないと言う主張が部分最適とすれば、公費を投入しない



青山 侑 明治大学大学院名誉教授
1943年10月生まれ、中央大学法学部卒業。東京都に入庁し36年間勤務、高齢福祉部長、計画部長、政策報道室理事を経て、平成11年より石原慎太郎知事の元で東京都副知事。平成16年より明治大学公共政策大学院教授に就任。「東京都知事列伝」「都市のガバナンス」など著書多数。

で築約百年のバリアフリーにも対応出来ない野球場等を、外苑全体の緑化レベルを強化しながら現代的なデザインにつくり変える今回の計画が全体最適と言えます。

スポーツと防災を強みとした計画

内田…神宮球場や秩父宮ラグビー場には、明治大学の応援で良く行きますが、老朽化が著しいです。少しでも早く整備して欲しいのですが。

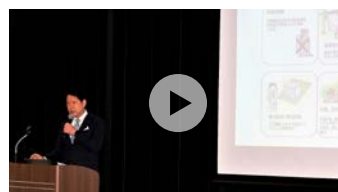
青山先生…ポイントは、まず神宮第二球場を取り壊し、その後に全天候型ラグビー場をつくることから秩父宮ラグビー場を解体し野球場をつくる事で、利用できない期間を短縮した事です。そして民間のビル開発を取り込んだ事により、明治神宮が所有する神宮球場や秩父宮ラグビー場の建て替えが可能となりました。神宮外苑地区公園まちづくり計画では、スポーツを核とした、バリアフリーが実現された誰もが気軽に訪れて楽しむことが出来る公園の再編と、災害時の帰宅困難者収容や防災ヘリ発着を含む広域避難場所として防災性を高める計画となっています。

内田…スポーツを通じたまちづくりと高度防災都市を提言してきた私にとっては、是非、実現して欲しい再開発計画です。最後に、この計画に対し青山先生はどの様に評価されていますか？

青山先生…私も樹木をできるだけ伐採するべきでないという意見に同感しますが、今回の計画は全体として政教分離のために公費を投入せず運動公園の基本を守りながら多くの難点の解消をはかった計画と評価できると考えます。

明治神宮外苑再開発計画の背景や、部分最適・全体最適の考え方は大変勉強になりました。ご多忙にも拘わらず快くお時間を取って頂きました青山侑先生には改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

活動フォトギャラリー



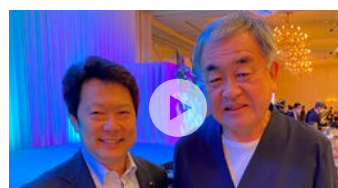
内田直之 まちづくりシンポジウム
まちづくりシンポジウムを開催しました。沢山の皆様にご来場頂き、本当にありがとうございました。

ワールドビールカップ
日比谷公園で開催された「ワールドビールカップin千代田」のオープニングセレモニーに参加しました。



ふれあい親善ゲートボール大会
コロナウイルス感染症に加え熱中症も心配でしたが、万全の対策で無事に大会が開催できました。

浅田敏彦荒尾市長
荒尾市が推進するスマートシティ構想についてご説明を受けました。浅田市長は国立有明高専の先輩です。



建築家の隈研吾先生
世界で活躍されている建築家。随分前ですが、隈研吾建築都市設計事務所とお仕事をさせて頂きました。

Action

全国神宮24社めぐり

全国には8万を超える神社がありますが、その中でも格式の高いお社に与えられるのが「神宮」です。全国に24社あり、皇室の祖神をお祀りしているのが6社、歴代天皇をお祀りしているのが12社、皇室に所縁の深い祭神をお祀りしているのが6社あります。最近参拝できた全国の「神宮」をご紹介します。

「鵜戸神宮」

荒波が打ち寄せる日向灘に面した断崖の岩窟内に、権現造りの本殿が鎮座しています。崖に沿って真っ赤な欄干を頼りに石段を下り参拝します。神社としては大変珍しい「下り宮」です。付近の海岸は、波の浸食で造られた海食洞や波食棚が多くあり名勝に指定されています。主祭神は鷯鷯草尊不合尊(うがやふさあえずのみこと)。母は豊玉毘売(とよたまびめ)、父は山幸彦として知られる火遠理命(ほおりのみこと)と伝えられています。日本神話の神々が今と繋がっていると思える、一度は訪れて欲しい神社です。



「霧島神宮」

主祭神は瓊瓊杵尊(にぎのみこと)。天照大神よりご神勅を戴き三種の神器と稲穂を持ち天降った天孫降臨の地が、ここ日向の高千穂峰と伝えられています。本殿、幣殿、拝殿が国宝に、登廊下、勅使殿、門守神社、神饌所は重要文化財に指定されています。

「鹿児島神宮」

主祭神は火遠理命(ほおりのみこと)と豊玉毘売(とよたまびめ)。大隅国一宮であり、南九州最大の神社として栄え続けてきました。本殿、拝殿、勅使殿、摂社四所神社本殿は重要文化財に指定されています。本殿には240枚にも及ぶ沢山の草花が描かれた天井絵は必見です。

Column

Profile

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社(現LIXIL)に入社。事業企画室長や商品企画室長、多くの開発プロジェクト責任者に就任。2011年より千代田区議会議員を3期10年勤め、議会運営委員長や予算特別委員長、会派では幹事長、政調会長を歴任。2021年東京都議会議員選挙に立候補するも次点にて惜敗。一級建築士。

●学歴

国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社(現LIXIL) 25年間勤務
U&D・パートナーズ一級建築士事務所 代表

●所属団体

一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
自民党東京都支部連合会 都政対策副委員長
一般社団法人 東京建築士会